

教育長様

校番 022 吉田 高等学校長

## 「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校 令和元年度 報告書

### 1 研究の概要

研究の目標（※計画書に記載したものを再掲）

吉田高校全体で育成する「資質・能力」を明確化し、ルーブリックを作成した上で、探究的な学習を総合的な探究の時間や全教科で試行的に展開し、その中で生徒が取り組んだ学習成果物を「ポートフォリオ」として蓄積することで、評価方法を具体化する。

研究内容（※対象，時期，方法を含む）

○総合的な探究（学習）の時間等における「探究的な学習」の充実について

1 学年「産業社会と人間」においては「探究的な学びの基礎づくり」をコンセプトに、前半（4月～7月）は2学年以降の選択科目受講に備えたキャリア学習、後半（9月～3月）は探究的な学びの基礎的カリキュラムを展開する。さらに当初の計画に加え、アグリビジネス科との連携事業として、アグリビジネス科2年生の指導のもとで野菜栽培を体験するという探究活動を試みた。また、2学年総合的な学習の時間「マイビジョン」では、安芸高田市の全面的な支援体制のもと安芸高田市をテーマにした4つの研究活動班を立ち上げた。

今年度は「産業社会と人間小委員会」を組織し、単元ごとの課題設定及び評価について細かく議論した。その中で、本校における探究活動のキーワードとして「疑うこと」「考え続けること」「メタ認知すること」の3つを掲げ、単元ごとの課題設定においてプロセスを大切にすることを共有している。特に9月に実施した「クリティカル・シンキング入門」ではこの3つの活動のキーワードを具体的に解説し、最終的に「質問する力」という実践力を明確化してルーブリックを作成した。

[1 学年 「産業社会と人間」]

- 4月 探究オリエンテーション（模擬グループワーク活動）  
アグリビジネス科との連携事業（農場見学・苗植・追肥）～7月初旬まで
- 5月 職場訪問（吉田小学校・吉田総合病院・吉田保育所）全2回実施
- 6月 大学講師による講演研修会（大阪教育大学特任講師 佐藤 雄一郎先生）
- 8月 上級学校訪問（三次看護専門学校・広島大学教育学部）
- 9月 クリティカル・シンキング基礎講座（24日 公開研究）
- 10月 ○人間を学ぶグループ…地域の様々な施設と連携した実習  
○地域を学ぶグループ…地域の様々な外部講師を招いた講義
- 12月 大学講師による講演研修会（広島大学大学院 吉田 成章先生）
- 1月 学習成果発表会において、それぞれのグループの取組についてプレゼン
- 2月 個別パフォーマンス課題の作成・評価  
他校（庄原格致高校）との連携合同授業

[2 学年総合的な学習の時間「マイビジョン」]

- 4月 安芸高田市職員によるオリエンテーション  
4つの研究班（国際交流・人口変動プログラム開発・健康促進・広報活動）に分かれて取組の方向性を計画
- 5月～7月 班ごとに企画を協議
- 8月 中間発表会⇒計画を修正
- 9月～11月 安芸高田市の支援を受けて、実際に安芸高田市広報（Web, 広報誌）に本校生徒の記事を掲載
- 1月 学習成果発表会において、それぞれの課題探究の取組についてプレゼンを行う。
- 2月 個別パフォーマンス課題の作成・評価

#### ○資質・能力の評価について

6月・11月の2回、1年生探究科全教科において、「パフォーマンス課題による資質・能力評価」を実施した。本校で設定した5つの評価観点のうち3つに絞り、4段階評価を行ってポートフォリオとして蓄積している。また「産業社会と人間」の評価についても、同様に学期ごとにパフォーマンス課題による評価を実施している。特に「産業社会と人間」の評価では、「KJ法」を活用して担当教師全員で協議をしながら評価するという取組を行い、より客観性のある評価を心掛けた。

このようにして蓄積したポートフォリオを、三者懇談での保護者・生徒への提示、教材としての次の授業における活用、さらには職員研修での研修材など、機会あるごとに開示し、課題の精選やルーブリックの改良など、PDCAサイクルを循環させるようにしている。

なお、3回目に当たる3月については、臨時休業の影響で実施できなかった。

#### 今年度の成果と課題

別紙様式2及び別紙様式3によって、本年度は昨年度からの生徒の変容を分析する予定であったが、3月の臨時休業に伴い最終レポートの評価ができなかった。よって、前段階の予備調査による分析のみとなり正確に変容を調査できていないが、それでも資質能力⑤探究力（課題解決を目指して主体的・協働的に真理の追究を継続する力）が飛躍的に上昇した。生徒の作成した文章をみても、自らの意見を俯瞰して客観的に自己評価し、クリティカルに捉えながらさらに思考を深めていることが明らかに見て取れる。これは2年間の取組の成果であると考えられる。

また、「産業社会と人間」におけるパフォーマンス評価については、「KJ法」による授業者全員の議論により客観的な評価に取り組んだ。これにより、評価について担当者で議論を深めることができただけでなく、資質能力をより具体的に明確にすることができた。例えば「理解力」なら、出題者の意図を読み取れているかどうかを重視したり、「判断力」なら明確な根拠を持って解決のための構想を立てているかを見取るなど、より評価しやすいものに改善できたことが大きな成果である。

しかしながら、パフォーマンス課題の質には依然として差があり、吉田高校としてどのように体系的に整理するのか、大きな課題である。また、今年度より探究科が始まり「産業社会と人間」についても、「インプット」の多さに対して振り返りや発表を行う「アウトプット」の場が少なく、企画の精選も大きな課題として残った。

#### 次年度の目標及び取組内容

パフォーマンス評価をベースとした探究学習カリキュラムの枠はある程度構築できたものの、前述したように課題の質的な差の問題や3年間を通しての体系的な整理など、内容面では改善すべきことが多い。3年間の研究の集大成として、これまでに開発・蓄積されたパフォーマンス課題とルーブリックをもとに、評価活動のPDCAサイクルを実働化させることで、私たち授業者のファシリテーターとしての能力を向上させ、さらには吉田高校で学ぶ全ての生徒が身に付けるべき「資質・能力」を全員が共有する。

次年度は探究科2年目であり、2年生は1年次学校設定科目「産業社会と人間」で学んだ探究の基礎を土台に、様々な特色ある探究科目がスタートする。「まち」「ひと」「しごと」の3つの各プログラムに特化した学校設定科目「教育探究」「医療探究」「伝統芸能探究」「スポーツ探究」で分野別の探究学習の充実を図りながら、各生徒が9領域より選択した探究活動に取り組む総合的な探究の時間「課題探究」で探究学習の発展を図る。各種イベントや研究発表等の内容は分野別・領域別の学習を束ね、様々な視点から構築する。また、カリキュラム検討委員会を定期的に開催し、一般科目と学校設定科目との横断学習について検討・提案を行い、双方の学びの活用による相乗効果をねらう。